

奈良市東部の複合遺跡 - 縄紋から安土・桃山時代まで

調査の概要 奈良市の東部、水間町には、弥生・古墳時代の遺物散布地があります。奈良時代以降は東大寺や新薬師寺の楠（木を採るための山）として利用され、中世には水間氏の支配地であったとされています。平成11・12年度に3回の調査を行ったところ、縄紋時代から安土桃山時代までの人々の生活の跡が多数見つかりました。

主なものとして、以下のような遺構があります。

微高地①	縄紋時代中期前葉（約5,000～4,700年前）の住居跡。
微高地②	縄紋時代早期後葉（約6700年前）以前の土坑、弥生時代後期末の溝と土坑、平安時代後期の掘立柱建物、鎌倉時代前期の溝。
谷 ①	飛鳥時代の護岸施設、鎌倉時代前期の祭祀遺構。
低地 ①	古墳時代後期の溝。
丘陵 ②	鎌倉～室町時代の火葬墓。
丘陵 ③	平安時代中期から鎌倉時代の土坑・溝。
丘陵 ⑤	弥生時代後期末の溝と土坑、鎌倉時代後半の土坑、室町時代前半の掘立柱建物と土坑、安土桃山時代の埋壘と壕。特に、壕の存在は丘陵⑤がこの頃居館の一部であったことを窺わせます。

これらのことから水間遺跡では、丘陵や微高地は縄紋時代から住居域として利用され、低地の一部は古墳時代後期によりやく開発されたことがわかります。平安時代末から鎌倉時代にかけて、谷や微高地・低地は、水田開発にともなう造成が行われており、住居域は丘陵の上に移っていったようです。

また、鎌倉～室町時代の火葬墓地や、安土桃山時代の居館からみて、有力者が存在し、水間の地を支配していたものと思われます。

水間遺跡 奈良市水間町



調査地の地形と時代別の遺構分布 1/4,000

中世の火葬墓 水間町には、村の鎮守として東大寺の手向山八幡神を勧請した八幡神社がありますが、この神社の参道につづく丘陵②は「馬場崎」と呼ばれ、神社の祭祀場として馬を走らせる場でした。この丘陵②の先端部を調査したところ、鎌倉・室町時代の火葬墓と考えられる遺構が見つかりました。

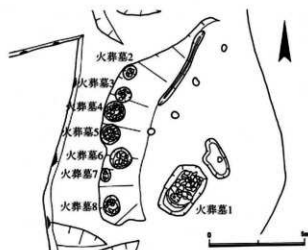
火葬墓とは、火葬骨を納めた墓のことで、仏教の影響で8世紀頃から日本でも営まれるようになったものです。水間遺跡では、8つの火葬墓を確認しました。

これらの墓は、丘陵の先端部を造成した平坦面と斜面とにそれぞれ造られていました。火葬墓1とそれ以外は、下表に示すように立地も形態も規模も異なりましたが、いずれも積み石がみられました。

火葬墓1では、墓穴の中に黄色粘土を入れ、その上に石が積まれていました。また、火葬墓2～8では、墓穴をある程度埋めた上にほぼ同心円状に石が積まれたものがありました。火葬墓2～8は、斜面上に並んで作られていますが、隣り合っているものでも時期が大きく異なっています。

積み石には、付近で産出する花崗岩の礫を多数用いていますが、火を受けた痕跡のある礫が多く含まれています。これに対し、墓穴の壁面や底面には熱を受けた痕跡がありませんでしたので、火葬場で用いられた礫を埋葬施設まで運んできたのでしょう。

墓穴に石が積まれているのは、墓地で石を積み行為が、功德を積み、死者の靈魂を顧うと共に自らの息災を願う行為とされているからと思われる。拾骨した骨は、骨蔵器が残っていないことから何らかの有機質の袋ないしは容器に入れて埋葬したのでしょう。これが年月を経て腐食し、上に



火葬墓の配置 1/200

積んでいた石が崩落したと考えられます。

出土遺物は、土器以外にありませんが、火葬墓1では、石積み空間に設けたり、土の上から穴が掘られており、ここに何らかの副葬品を埋納していた可能性もあります。しかし、追葬のための墓穴である可能性もあります。

奈良県宇陀地方の中世墓地の例（大王山遺跡）では、13世紀頃から在地の有力者によって火葬墓地が造営されるようになったようで、14世紀後半以降になると造墓者が広がり、新たに台頭した名主層が小規模墓地を多くつくるようになってきます。

水間遺跡の火葬墓は、13世紀後半～14世紀後半のきわめて小規模な墓地であります。その立地は鎮守社の祭祀場の先端であり、また背後に山を負い、平地の流水を臨むという風水思想に基づく選地であることから、この頃の水間町における極めて中心的な人物が埋葬されていたのかも知れません。中世に水間を支配していた水間氏が記録にあらわれるのは天文2年（1553）からであり、墓に葬られているのは、それ以前に水間を支配していた人物の可能性もあります。

	遺地	墓穴の平面形	墓穴の規模		出土遺物	時期
火葬墓1	平坦面	方形	2.8m×1.7m	深さ約0.3m	土器器身	14世紀後半
火葬墓2	斜面	円形	直径約0.7m	深さ約0.3m		
火葬墓3	斜面	円形	直径約0.9m	深さ約0.6m		
火葬墓4	斜面	円形	直径約1.0m	深さ約0.7m	土器器羽蓋	14世紀後半
火葬墓5	斜面	円形	直径約1.0m	深さ約0.8m	瓦器輪	13世紀後半
火葬墓6	斜面	円形	直径約1.3m	深さ約0.3m		
火葬墓7	斜面	円形	直径約0.9m	深さ約0.3m		
火葬墓8	斜面	円形	直径約1.1m	深さ約0.3m		

火葬墓の規模・形態・その他